

小・中学校学習指導要領解説から

子どもたちの実態を見つめ、指導上の意図を明確にした、具体的な手立てを教師に提供する

個性豊かな子どもたちは 指導の工夫によって 学校に居場所を つくることができます

指導において、子どもたちが好きなことを生かしましょう。

活躍できることがあるはずです。そうすれば、自己肯定感は生まれます。

学校や学級が居場所となります。

生徒指導上の問題の未然防止にもつながります。

教育相談においても、子どもの心をほぐすとき、

「好きなことは?」と聴くと、

子どもたちは、生き生きと語り、やがて、

自分の心の深いところにある、言いたかったことに気付きます。

全ての子どもたちの可能性に光をあてることは、
教師として、大人として、大切な役割だと思います。

リーフレットの構成と使い方

各教科等の指導方法の工夫(各教科, 全教科, 小・中を見通して活用)

小学校学習指導要領解説を基にした
指導方法の工夫 国語編

■ミニ事例検討会

児童生徒一人一人の困難さの状態を話し合うことで、項目以外のエピソードも共有できます。拡大コピーも利用して、ミニ事例検討会を開いてみましょう。

■工夫の意図

学びの過程において把握した実態に対して、指導の工夫の意図を明確にすることは重要です。

■全学年で共有する指導の工夫

校内研修では、記載した指導例以外の教師の実践例も共有しましょう。
全学年で授業改善ができます。

■キーワード

重要な語句は色を変えています。キーワードで児童生徒の困難さの概要をつかむことができます。

	児童の困難さ (日常生活の中の実態把握)	国語	
①文章を目で追いつながら音読することが困難	①自分のどこを読むのかが分かる ②行間を空ける ③語のまとまりや区切りが分かる ④読む部分だけが見える	①自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難 ②行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせてから言葉で表現させる	①声を出して発表することに困難がある、人前で話すことへの不安を抱く ②多様な表現方法が選択できる ③自分の考えを表すことに対する自信をもたせる
①教科書の文を指等で押さえながら読むよう促す ②拡大コピーをしたものを用意 ③分ち書きされたものを用意 ④自助具(スリット等)を活用	①児童の日常生活経験を例文を示す ②気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示す ③気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示す	①紙やホワイトボードに書いたものを提示 ②ICT機器を活用して発表	

年間を通しての実践イメージ

生徒指導上の問題の未然防止を目指して、年間の実践を展開しました。前年度からの支援体制づくりに活用ください。

小1はスタートカリキュラムからの「基本的生活習慣の育成」、中1は保健体育科と特別活動の教科等横断的な視点による「心と体の健康づくり」を記載しています。



*リーフレットは鳴門教育大学生徒指導支援センターホームページに、PDFファイルでも提供しています。必要なページをダウンロードし、利用してください。

リーフレットの作成に関する協力者 (順不同, 敬称略)

徳島県公立小・中学校教諭

実践研究資料提供

河野 由美(小学1年生の実践)
馬場貴美子(中学1年生の実践)

学校現場のニーズに関する情報提供

四宮 ゆみ, 池上 朗子, 小堀 訓子

鳴門教育大学生徒指導支援センターにおいては、
次の者がリーフレットの作成・編集に当たった。

末内 佳代 鳴門教育大学教職大学院 生徒指導コース 教授

新年度

学年末



情報引継ぎ

前年度



実態把握



予想される
困難場面と手立

2・3学期



基本的な生活
習慣の定着

子どもの学びを つなぐ 小1プロブレム 未然防止



学校・学級
環境の整備



支援の見直し



スタート
カリキュラム

入学

幼児期教育と
接続した授業

使いやすい環境

*2学期・3学期と
継続して入学時
からの基本的な
生活習慣の定着
を図る

*児童に、5月初旬と夏休み
明けに生活と学習の
アンケート、個別の聞き
取りを実施、「子どもの
言葉」を大切にされた支援
の見直しを行う

*授業時間(45分)を15分や
20分に分割
*見て、聞いて、触れて、匂って、
感じたり考えたりしたことを
表現し伝え合う授業「がっこう
たんけん」

*簡単でわかりやすい
*見通しをもって生活
できる
①場の構造化
ロッカーの使い方
②ルールの明確化
机の上に置くもの・
ゴミの分別表示・
掃除の仕方と手順

*①幼児期に親しんだ活動
えほん・手遊び歌
②必要な基本的な生活習慣
トイレ・お道具箱・靴箱・
傘立ての使い方
朝の学習準備
③人と関わる楽しい活動
自己紹介
握手ゲーム
じゃんけん列車 など

*幼稚園、保育所等を訪問

- ① 幼児の生活の観察
- ② 幼児の実態(発達・学びの様子・生活・コミュニケーション)、幼保の指導方法、小学校のスタートカリキュラムへの意見を聴取

*幼保の訪問情報を基に

- ① スタートカリキュラムについて
教職員全員が共通理解
- ② 予想される困難場面での具体的な手立ての検討
トイレ・靴箱の使い方
廊下の歩き方
朝の学習準備
話の聞き方 など

③ ②を基に教
職員全員が
環境整備と
授業改善

新年度

*新入生小・中連絡会

- ①欠席日数, 保健室登校日数, 遅刻・早退日数
- ②児童の実態(学習・生活・コミュニケーション)

*見通し

- ①登校して授業開始までの流れ
- ②1時間の学習内容
- ③背面黒板に週予定
- ④日直の仕事の流れ
- ⑤授業準備物一覧表(全教科の準備物の写真付)
- ⑥朝学活連絡事項はホワイトボードを使用

*1・2・3学期終了時に心と体のアンケートを実施, 支援の見直しを図る



情報引継ぎ

前年度



実態把握

*集中

- ①教室前方は黒板・日課表・学級目標・声のものさしのみで, 刺激量を減らす
- ②静かに学習するマーク

入学前の環境整備



見通しが立つ生活

支援の見直し



体育祭に向けて

心と体は一体 安定した学校生活

中1ギャップ 未然防止



集中できる学習環境



宿泊活動に向けて



目で見てわかる
生徒指導

心の教育



体ほぐしの
運動

学級開き



学級担任制から
教科担任制

*複数小学校による人間関係の変化:
緊張・不安の解消
(体育分野「体ほぐしの運動」)

*明確: ルールの視覚化

- ①掃除道具の片付け方 (環境・美化委員会との連携)
- ②ロッカーの構造化 (上級生の使用モデル写真)
- ③テストの受け方 (高校受験につなげる)
- ④職員室の入室の仕方 など

*「体育祭をテーマにした共同コラージュ」:
体育祭への意欲を高める

*「心の花束」: 体育祭を振り返り, 友達へ感謝の気持ちを伝える

*「トラストワーク」:
信頼し合う素晴らしさを体感

*「いいとこさがし」:
宿泊活動中のお互いの良さを認め合う

*思春期心性: うまくいかない・集中できない・イライラしやすい
→心の健康を保つための適切な対処法
(保健分野「心身の機能の発達と心の健康」)

*「先生を知るイエス・ノークイズ」:
担任への信頼感を養う

*生徒に, 4月中旬に心と体のアンケートを実施, 生徒の実態を踏まえた学習

	国語			社会				算数				
(児童の困難さ 日常生活の中の実態把握)	<input type="checkbox"/> 文章を目で追いながら音読することが困難	<input type="checkbox"/> 自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難	<input type="checkbox"/> 声を出して発表することに困難がある、人前で話すことへの不安を抱く	<input type="checkbox"/> 地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難	<input type="checkbox"/> 社会的事象に興味・関心がもてない	<input type="checkbox"/> 学習問題に気付くことが難しい	<input type="checkbox"/> 予想を立てることが困難	<input type="checkbox"/> 情報収集や考察、まとめの場面において、考える際の視点が定まらない	<input type="checkbox"/> 「商」「等しい」など、児童が日常生活使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解が困難	<input type="checkbox"/> 文章を読み取り、数量の関係を式を用いて表すことが難しい	<input type="checkbox"/> 空間図形のもつ性質を理解することが難しい	<input type="checkbox"/> データを目的に応じてグラフに表すことが難しい
(指導上の意図を理解)	<ul style="list-style-type: none"> ①自分がどこを読むのかが分かる ②行間を空ける ③語のまとまりや区切りが分かる ④読む部分だけが見える 	行動や会話文に気持ちや込められていることに気付かせてから言葉で表現させる	多様な表現方法が選択できる自分の考えを表すことに対する自信をもたせる	掲載されている情報を精選し、視点を明確にする	社会的事象の意味を理解しやすくするため、社会の営みと身近な生活が繋がっていることを実感できるようにする	社会的事象を読み取りやすくする	見通しをもてる	参考にできる	具体的にイメージをもつことができる	<ul style="list-style-type: none"> ①数量の関係をイメージできる ②解決に必要な情報に注目できる 	空間における直線や平面の位置関係をイメージできる	目的に応じたグラフの表し方があることを理解する
(個に応じて検討)	<ul style="list-style-type: none"> ①教科書の文を指等で押さえながら読むよう促す ②拡大コピーをしたものを用意 ③分かち書きされたものを用意 ④自助具（スリット等）を活用 	児童の日常生活経験に関する例文を示す 気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示す 気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示す	紙やホワイトボードに書いたものを提示 ICT機器を活用して発表	地図等の情報を拡大する 見る範囲を限定する	特別活動などとの関連付けなどを通して、具体的な体験や作業などを取り入れる 学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにする	写真などの資料や発問を工夫する	ヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする	見本を示したワークシートを作成する	児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げて、既習の言葉や分かる言葉に置き換える	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げる 場面を具体物を用いて動作化させる ②文章を一部分ごとに示す 図式化する 	立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉で特徴を説明する 見取図や展開図と見比べて位置関係を把握する	折れ線グラフの縦軸の幅を変えたグラフに表す 棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフなど違うグラフに表し、よりよい表し方に気付く

	理科	生活				音楽	図画工作					
児童の困難さ (日常生活の中の実態把握)	<input type="checkbox"/> 実験の手順や方法を理解することが困難であったり、見通しがもてなかったりする <input type="checkbox"/> 燃焼実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気付くにくい <input type="checkbox"/> 自然の事物・現象を観察する活動において、時間をかけて観察をすることが難しい	<input type="checkbox"/> 言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい <input type="checkbox"/> みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい	<input type="checkbox"/> 自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが困難 <input type="checkbox"/> 学習の振り返りの場面において学習内容の想起が難しい	から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながるものと考えられる 配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点だけでなく、むしろ得意なことを生かすという視点	<input type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素(リズム、速度、旋律、強弱、反復等)の聴き取りが難しい <input type="checkbox"/> 多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多く、児童がどこに注目したらよいか混乱しやすい	<input type="checkbox"/> 変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい <input type="checkbox"/> 形や色などの特徴を捉えることや、自分のイメージをもつことが難しい						
工夫の意図 (指導上の意図を理解)	学習の見通しがもてる	教員が確実に児童の様子を把握できる	注意集中を持続する		説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできる	大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できる	どのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすくする	学習経過を思い出しやすくする	要素に着目しやすくなるように、要素の表れ方を視覚化、動作化する	視覚的に情報を整理する	造形的な特徴を理解し、技能を習得する	形や色などに気付くことや自分のイメージをもつことのきっかけを得られる
手立て (個に応じて検討)	実験の目的を明示する 実験の手順や方法を視覚的に表したプリント等を掲示したりする	教員が確実に様子を把握できる場所で活動できるようにする	観察するポイントを示したり、ICT教材を活用したりする		体験的な事前学習を行う	学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に教える	考える項目や順序を示したプリントを準備して文章を書く 事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現してから文章を書く	学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用する	音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりする 動作化は、決められた動きのパターンを習得するようない活動にならないように留意する	拡大楽譜などを用いて声部を色分けする リズムや旋律を部分的に取り出してカードにする	児童の経験や実態を考慮して、特徴が分かりやすいものを例示 多様な材料や用具を用意したり、種類や数を絞ったりする	自分や友人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定する

	家庭			体育		外国語活動・外国語		特別の教科 道徳
(児童の困難さ 日常生活の中の実態把握)	□学習に集中したり、持続したりすることが難しい	□活動への関心をもつことが難しい	□周囲の状況に気が散りやすく、 包丁、アイロン、ミシン などの用具を安全に使用することが難しい	□複雑な動きをしたり、 バランス を取ったりすることに困難	□勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする	□音声を聞き取ることが難しい	□1単語当たりの文字数が多い 単語 や、 文 などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりするのが難しい	□他者との社会的関係の形成に困難があり、 相手の気持ちを想像 することが苦手で字義通りの解釈をする、 暗黙のルール や 一般的な常識 が理解できない、また、望ましいと分かっているとおりにできないことがある □ 海外から帰国した児童や外国人の児童 、 両親が国際結婚である児童の多くは 、日本社会とは異なる言語や生活習慣、行動様式を身に付けていると考えられる 日本語の理解が不十分なために、他の児童と意見を伝え合うことなどが難しいことも考えられる
(指導上の意図を理解)	落ち着いて学習できるようにする	視覚的に捉えられるようにして関心を高める 体感できるようにして関心を高める	手元に集中して安全に作業に取り組める	極度の不器用さや動きを組み立てることへの苦しさがあることが考えられる	活動の見通しをもたせる 考えたことや思ったことをすぐに行動に移すことを防ぐ	①外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付く ②本時の流れが分かる	①語のまとまりや文の構成を見て捉えやすくする ②貼る位置や順番に配慮する	①他者の心情を理解する ②評価に当たっても、困難さの状況ごとの配慮を踏まえる 他の児童との比較による評価や目標への到達度を測る評価ではなく、一人一人の児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を行う、道徳科の評価本来の在り方を追求する
(個に応じて検討)	道具や材料を必要最小限に抑えて準備する 整理・整頓された学習環境で学習できるように工夫する	約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示 体感できる教材・教具を活用する	個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保する	動きを細分化して指導したり、適切に補助をしながら行ったりする	活動の見通しを立ててから活動させる 勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認する	①リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表す ②本時の活動の流れを黒板に記載しておく	①外国語の文字を提示する際に字体をそろえたり、線上に文字を書く ②語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼る	①役割を交代して動作化、劇化する、ルールを明文化する ②相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童の多面的・多角的な見方への発展や道徳的価値を自分のこととして捉えているかを丁寧に見取る 道徳的価値の理解を深めていることをどのように見取るのかという評価資料を集める 日本語を使って十分に表現することが困難な児童については、発言や記述以外の形で見られる様々な姿に着目する

	総合的な学習の時間					特別活動		
(児童の困難さ) 日常生活の中の実態把握	□様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめることに困難がある	□関心のある事柄を広げることが難しい	□様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べることが難しい	□学習の振り返りが難しい	□人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい	□相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手	□話を最後まで聞いて答えることが苦手	□学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする
(指導上の意図を理解)	必要な事象や情報を選択して整理できる	関心のもてる範囲を広げることができる	具体的なイメージをもって比較することができる	学習してきた場面を想起しやすいように、思い出すための手掛かりが得られるようにする	安心して発表できるように児童の表現を支援するための手立てを工夫	他者の心情等を理解しやすいようにする	発言するタイミングが理解できるように、コミュニケーションの図り方についての指導	見通しがもてる
(個に応じて検討)	着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示する	現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示している	比べる視点を明確にする、より具体化して提示する	学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示す	発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにする ICT機器を活用する	役割を交代して相手の気持ちを考える 相手の意図を理解しやすい場面に置き換える イラスト等を活用し視覚的に表す	事前に発言や質問の際のタイミングなどについて具体的に伝える	各活動・学校行事のねらいや活動の内容、役割(得意なこと)の分担などについて、視覚化する 理解しやすい方法を用いて事前指導 周囲の児童に協力を依頼

児童の知的な側面、情意的な側面、身体的な側面などに関する児童の実態の姿や経験といった、児童の実態等に応じて創意工夫を生かした教育活動を行うことが必要である

総合的な学習の時間においては、各教科等の特質に応じて育まれる「見方・考え方」を総合的に働かせようとする学習を行うため、各教科等における配慮を踏まえて対応する

配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点だけでなく、むしろ得意なことを生かすという視点から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながるものと考えられる

教師の皆様へ

学習指導要領は、「学びの地図」として、全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。

およそ10年に一度改訂され、これを基に子どもたちの教科書や時間割が作られます。小学校は2020年度～中学校は2021年度～新しい学習指導要領がスタートします。

この表は、小中学校における全ての教科等の新学習指導要領の解説の中から一部を引用し、要約したものです。

通常の学級における、個性豊かな子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導や支援を目指して、各教科等の指導の工夫の意図、手立てを簡単・明確に示しています。

引用・参考文献
各教科等の小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説（文部科学省，2018）

	国語			社会				数学		
(日常生活の中の実態把握)	<input type="checkbox"/> 自分の立場以外の視点で考 えたり他者の感情を理解した りするのが困難	<input type="checkbox"/> 比較的に長い文章を書くなど、一定 量の文字を書くことが 困難	<input type="checkbox"/> 声を出して発表 することに困難が ある。人前で話す ことへの不安を抱 く	<input type="checkbox"/> 地図等 の資料から必要な 情報を見付け出し たり、読み取った りすることが困難	<input type="checkbox"/> 社会的事象 に興味・関心 がもてない	<input type="checkbox"/> 学習過 程における動機付 けの場面において 学習上の課題を見 いだすことが難し い	<input type="checkbox"/> 方向付 けの場面 において、 予想を立てることが 困難	<input type="checkbox"/> 情報収集や 考察、まとめ の場面において、 どの観点で考えるの かが難しい	<input type="checkbox"/> 文章を読 み取り、数量 の関係を文字 式を用いて表すこと が難しい	<input type="checkbox"/> 空間図形 のもつ性質 を理解する ことが難し い
(指導上の意図を理解)	文章に表れている心情やその 変化等が分かるように、工夫し てから、言葉で表現させる	文字を書く 負担を軽減 する	多様な表 現方法が 選択でき る工夫 自分の考 えを表す ことに対 する自信 がもてる	掲載され ている情 報を精選 し、視点 を明確に する	その社会的 事象の意 味を理 解しやすく するため、 社会の 動きと身 近な生活 がつか なっている ことを実 感でき るように する	社会的 事象を読 み取り やすく する	見通しが もてる	参考に できる	①数量の 関係をイ メージ できる ②解決に 必要な 情報に 注目 できる	空間にお ける直線 や平面の 位置関 係をイメ ジできる
(個に応じて検討)	生徒が身近に感じられる文章 (例えば、同年代の主人公の物 語など)を取り上げる 行動の描写や会話文に含まれ ている気持ちがよく伝わって くる語句等に気付かせる 心情の移り変わりが分かる文 章の中のキーワードを示す 心情の変化を図や矢印などで 視覚的に分かるように示す	手書きだけ ではなくICT 機器を使 って文章 を書くこ とができ るよう にする	紙やホ イボード に書いた ものを 提示 ICT機器 を活用し て発表	地図等 の情報を 拡大する 見る範 囲を限定 する	特別活動 などの関 連付け を通して、 実際の体 験や作業 などを取 り入れる 学習の順 序を分か りやすく 説明し、 安心して 学習でき るように する	写真など の資料や 発問を工 夫する	ヒントに なる事実 をカード 等に整理 して示し、 学習順序 を考えら れるよう にする	ヒントが 記入され ているワ ークシ ートを作 成する	①生徒の 経験に基 づいた場 面や興味 のある題 材を取り 上げる ②印を付 けさせる 場面を 図式化 する	立体模型 で特徴の ある部分 を触らせ るなどし ながら、 言葉で 特徴を説 明する 見取図や 展開図と 見比べて 位置関 係を把握 する

	理科	音楽	美術	技術家庭
生徒の困難さ (日常生活の中の実態把握)	<p>□実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難</p> <p>□燃焼実験のような学習活動においては危険を伴う</p>	<p>□音楽を形づくっている要素(音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など)を知覚することが難しい</p> <p>□音楽を聴くことにより自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい</p>	<p>□形や色彩などの変化を見分けたり、微妙な変化を感じ取ったりすることが難しい</p> <p>□造形的な特徴などからイメージを捉えることが難しい</p>	<p>□周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用することが難しい(技術分野:「A材料と加工の技術」の(2))</p> <p>□新たなプログラムを設計することが難しい(技術分野:「D情報の技術」の(2)及び(3))</p> <p>□調理や製作等の実習を行う際、学習活動の見通しをもちたり、安全に用具等を使用したりすることが難しい(家庭分野:「B衣食住の生活」の(3)及び(5))</p> <p>□グループで活動することが難しい</p>
工夫の意図 (指導上の意図を理解)	見通しがもてる	教員が確実に生徒の様子を把握できる	要素に着目しやすくできるように要素の表れ方を視覚化、動作化する	表現したい言葉を思い出すきっかけとなる
手立て (個に応じて検討)	<p>実験の操作手順を具体的に明示する</p> <p>扱いやすい実験器具を用いる</p>	<p>教員が確実に様子を把握できる場所で活動できるようにする</p>	<p>音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりする</p> <p>動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する</p>	<p>イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにする</p>
			<p>①生徒の実態やこれまでの経験に応じて工夫する</p> <p>②一人一人が自分に合ったものが選べる</p>	<p>形や色などに対する気付きや豊かなイメージにつながる</p>
			<p>①造形の要素の特徴や動きが分かりやすいものを例示</p> <p>②多様な材料や用具を用意したり種類や数を絞ったり、造形の要素の特徴や動きが分かりやすいものを例示</p>	<p>個別の対応ができる作業スペースや作業時間を確保する</p> <p>作業を補助するジグを用いる</p>
			<p>①造形や色彩などの変化を見分けたり、微妙な変化を感じ取ったりすることが難しい</p> <p>②一人一人が自分に合ったものが選べる</p>	<p>障害の状況に応じて、手元に集中して安全に作業に取り組める</p> <p>難易度の調整や段階的な指導に配慮して、生徒が考えやすくする</p> <p>随時生徒が視覚的に確認できるようにして、安全への配慮を徹底する</p> <p>役割分担や役割が実行できたかを振り返ることができるようにする</p>
			<p>実際の学習の場面においては、生徒の困難さの状態を把握しつつ、他の生徒との関係性や学級集団の雰囲気などに応じて、適切かつ臨機応変に対応することが求められる</p> <p>また、一人一人の状況や発達の特性に配慮し、個に応じた学習を充実させていくことが求められる</p>	<p>あらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにする</p> <p>個に応じて段階的に手順を写真やイラストで提示する</p> <p>実習中の約束事を決め、視覚的に確認できるようにする</p> <p>他の生徒と協力する具体的な内容を明確にする</p>

	保健・体育									外国語	
(日常生活の中の実態把握)	<input type="checkbox"/> 見えにくさのため活動に制限がある	<input type="checkbox"/> 身体の動きに制約があり、活動に制限がある	<input type="checkbox"/> リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること ボールや用具の操作等が難しい	<input type="checkbox"/> 試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい	<input type="checkbox"/> 日常生活とは異なる環境での活動が難しい	<input type="checkbox"/> 対人関係への不安が強く、他者の体に直接触れることが難しい	<input type="checkbox"/> 自分の力をコントロールすることが難しい	<input type="checkbox"/> 勝ち負けや記録にこだわりの過ぎて、感情をコントロールすることが難しい	<input type="checkbox"/> グループでの準備や役割分担が難しい	<input type="checkbox"/> 保健の学習で、実習などの学習活動に参加することが難しい	<input type="checkbox"/> 明確な規則にこだわり、強い不安や抵抗感を抱いてしまう
(指導上の意図を理解)	不安を軽減したり安全に実施したりする	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できる	動きを理解する、自ら積極的に動いたりする	生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにする	不安を解消できる	仲間とともに活動することができる	状況に応じて力のコントロールができる	状況に応じて感情がコントロールできる	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解する	実習の手順や方法が理解できる	英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多いことを留意する
(個に応じて検討)	活動場所や動きを事前に確認する 仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決める 音が出る用具を使用する	用具やルールの変更を行うそれらの変更について仲間と話し合う活動を行う 必要に応じて補助用具の活用を図る	動きを視覚的又は言語情報に変更、簡素化して提示 動かす体の部位を意識させる 操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫	挑戦することを認め合う雰囲気づくりをする ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図る	学習の順序や具体的な内容を段階的に説明する	ロープやタオルなどの補助用具を用いる	力の出し方を視覚化したり、力の入れ方を数値化したりする	事前に活動の見通しを立てる 勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認する	準備や役割分担の視覚的な明示 生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませる	手順や方法を視覚的に示す 一つ一つの技能を個別に指導する	語を書く、発音することがねらいの活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにする 似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにする

	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間						特別活動		
(日常生活の中の実態把握)	<p>□他者との社会的関係の形成に困難があり、相手の気持ちを想像することが苦手で字義通りの解釈をする、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないまた、望ましいと分かっているにもかかわらずできないことがある</p> <p>□海外から帰国した生徒や外国人の生徒、両親が国際結婚である生徒の多くは、日本社会とは異なる言語や生活習慣、行動様式を身に付けていると考えられる日本語の理解が不十分なために、他の生徒と意見を伝え合うことなどが難しいことも考えられる</p>	<p>□様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめたりすることに困難がある</p>	<p>□関心のある事柄を広げることが難しい</p>	<p>□様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べることが難しい</p>	<p>□学習の振り返りが難しい</p>	<p>□人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい</p>	<p>総合的な学習の時間においては、各教科等における配慮を踏まえて対応する。生徒の知的な側面、情意的な側面、身体的な側面などに関する生徒の実際の姿や経験といった、生徒の実態等に応じて創意工夫を生かした教育活動を行うことが必要である。</p> <p>配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点だけでなく、むしろ得意なことを生かすという視点から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながるものと考えられる。</p>	<p>□相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手</p>	<p>□話を最後まで聞いて答えることが苦手</p>	<p>□学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする</p>
(指導上の意図を理解)	<p>①他者の心情を理解する</p> <p>②評価に当たっては、困難さの状況ごとの配慮を踏まえる</p> <p>他の生徒との比較による評価や目標への到達度を測る評価ではなく、一人一人の生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を行う、道徳科の評価本来の在り方を追求する</p>	<p>必要な事象や情報を選択して整理できる</p>	<p>関心のもてる範囲を広げることができる</p>	<p>具体的なイメージをもって比較することができる</p>	<p>学習してきた場面を想起しやすいように、思い出すための手掛かりが得られるようにする</p>	<p>安心して発表できるように生徒の表現を支援するための手立てを工夫</p>		<p>他者の心情等を理解しやすいようにする</p>	<p>発言するタイミングが理解できるように、コミュニケーションの図り方についての指導</p>	<p>見通しがもてる</p>
(個に応じて検討)	<p>①役割を交代して動作化、劇化する、ルールを明文化する</p> <p>②相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているなど、生徒の多面的・多角的な見方への発展や道徳的価値を自分のこととして捉えているかを丁寧に見取る道徳的価値の理解を深めていることをどのように見取るのかという評価資料を集める</p> <p>日本語を使って十分に表現することが困難な生徒については、発言や記述以外の形で見られる様々な姿に着目する</p>	<p>着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示する</p>	<p>現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示している</p>	<p>比べる視点を焦点を明確にする、より具体化して提示する</p>	<p>学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示す</p>	<p>発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにする</p> <p>ICT機器を活用する</p>		<p>役割を交代して相手の気持ちを考える</p> <p>相手の意図を理解しやすい場面に置き換える</p> <p>イラスト等を活用して視覚的に表す</p>	<p>事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝える</p>	<p>各活動や学校行事のねらいや活動の内容、役割(得意なこと)の分担を視覚化する</p> <p>理解しやすい方法を用いて事前指導</p> <p>周囲の生徒に協力を依頼</p>